

樹園地の現状は？

田野・中川地区

(自民クラブ)

問

田野・中川地区の樹園地は、特産の愛宕柿をはじめとする果樹の生産地として知られているが、最近では、厳しい農業環境を背景として耕作を放棄した土地がいろいろの所にみられるようになった。

農業従事者の高齢化が進む中で、長年の経験と培ってきた生産技術からして、離農することは、生産農家にとっても産地にとっても大きな損失である。市は、現状をどう認識し、今後樹園地全体の元を取り戻すための対策をどう講じていくのか。

答

樹園地は、丹原町関屋川流域に広がる扇状地に位置し、愛宕柿などの果樹栽培が行われ、平場樹園地としては、西日本でも有数の果樹生産地帯を形成している。しかし、近年の果樹価格の低迷や農業従事者の高齢化、地域農業の担い手不足の進行によって放任園が増大し、平成20年度の調査結果では、放棄園地50ヘクタール、不作付地12ヘクタール、合計62ヘクタールの遊休農地が樹園地内に点在している。

こうした現状を打開するため手法として、平成19年度からこの樹園地帯を核としたグリーン・ツーリズムなどの推進のほか、平成20年度から市単独事業で放任園解消経費に対して反当



小学生の農業体験



たり7万円の定額助成制度を設けるなど、耕作放棄地の解消に向けて取り組んでいるところがある。

今後、樹園地の再編整備については、畑地かんがい施設の改修に取り組むとともに、新たな手法も含めた土地利用計画について、JAをはじめとする地元関係者や地権者と協議を重ねていきたい。

どう取り組む？

フリーゲージトレインの導入

(リベラル西条)

問

フリーゲージトレイン(軌間可変電車)は、平成30年3月に九州新幹線の西九州長崎ルートで開業が予定されており、現在、その実用化に向けて技術開発が行われている。

市は「愛媛県フリーゲージトレイン導入促進期成同盟会」のメンバーとして、導入に向け、これまでどのような取組を行ってきたのか。

答

「愛媛県フリーゲージトレイン導入促進期成同盟会」は、平成16年5月に愛媛県

及び県内全市町が参加して設立されたものである。

その後、今日までの間、フリーゲージトレインの予讃線への早期乗り入れに向け、国やJR西日本及びJR四国の各社に対する要望活動、県内集客施設における模型の展示による広報活動などを行っている。

フリーゲージトレインの導入により高速鉄道網が実現すれば、関西圏などの大都市圏までの心理的・時間的な距離が短縮され、特に、観光客の呼び込みや、市が取り組んでいる各種スポーツなどのキャンプ・合宿の誘致にもつながり、さらには地域産業への波及効果が生まれ、地域経済の活性化に期待ができる。

このようなことから、本市では、導入効果に早くから注目し、同盟会が設立される以前から四国市長会などで早期導入促進を訴えるとともに、導入に向けた機運を高めるため、市庁舎や四国鉄道文化館において模型やパネルの展示を行い、フリーゲージトレインのしくみなどを市民に周知してきたところである。

今後とも同盟会の活動を通じて国やJR四国などに対し、早期導入を積極的に訴えるとともに



四国鉄道文化館に展示された模型

に、導入効果を最大限に発揮させるために、岡山・松山間の短絡線の整備を含めた新しい路線の在り方や、東京への直通運転を視野に入れ、JR東海に対する要望活動や提案などを積極的に行っていきたい。

※フリーゲージトレイン(軌間可変電車)レールの幅にあわせて自動的に電車の車輪間隔を変え